

石浜小地区

コミュニティ委員会

石浜小地区コミュニティ委員会は平成4年3月に発足した、17地区目のコミュニティです。現在は歴代の石浜小学校PTA会長が中心となり運営しています。また、サークルだけでなく近隣町会を含め、防災訓練など様々な行事を地域一丸となつて行っており、「この地区に根差したコミュニティ委員会だなぁ」と私は感じています。



さて、今回は「東京オリンピックを控えて」というテーマですので、オリンピックに関連した団体として、空手を行っている私達、「空手道剛柔流空錬会」の活動や理念をご紹介させていただきます。

まずは、ご存じない方もいらつしやると思しますので、簡単に空手について説明させていただきます。諸説ありますが、中国の「拳法」と沖縄の武術「手」を元に発展した沖縄発祥の伝統的な武道です。それが戦後に日本全国へ広く普及していき、現在では欧米を始め、アジア等世界中に広がり、オリンピック種目に採用されるまでになりました。



空錬会は、その空手を通して青少年育成活動及び健康な晩年を送れるようにと、生涯スポーツとしても活動しております。

活動日は毎週月曜日の17時～19時、日曜日は月に2～4回、10時～13時です。参加者は3歳から大人までで、過去には親子で練習をしている方もいました。現在は、私達指導者も含めて4歳から49歳と幅広い年代で活動しております。

オリンピックにつながる競技でもある空手は、勝つことばかりに目が行きがちになりそうですが、空錬会ではまず「体育」の精神を大事にし、武道を通じて心身を鍛錬することに重きを置き、「大きな声で返事・あいさつ」をモットーに取り組んでいます。この取り組みの目的は礼儀を身につけることはもちろんのこと、**誰でも意識さえすれば出来る事を繰り返すことにより、意識して自分自身を改善する能力を**少しでも身につけることです。

具体的には「いつも注意されていることだな」「これ、自分の悪い癖だな」などの些細な事の改善習慣です。

このような事を更に発展させ、様々な事を空手を通じて体験・学習してもらえたらと考えて活動しています。

最後になりますが、空手はオリンピックでの金メダル獲得有力な競技です。是非、皆さん期待してください。そして空手界への応援をよろしく願います!!

空手道剛柔流空錬会 瀧澤 満



東上野地域

コミュニティ委員会

東上野地域コミュニティ委員会は創立36年になります。

平成31年2月の台東区コミュニティ交流大会では下町ケーナ同好会の演奏を中心に自由の翼ダンス、コミュニティ有志のバックダンス約60名が浅草公会堂の舞台の上で興奮の演技をしました。

令和元年の「五月の夜の夢」では地域の11団体が参加。当委員会より古くからある「西町バレエサークル」の可愛い児童が出演し、多くの観客より声援を受けていました。

運営委員長 北畠 啓行

第21回 五月の夜の夢にて



東京2020大会を控えて

昭和39年、小学生だった私は仙台で聖火ランナー達が走り去っていくのを、同級生と一緒に小旗を振りながら見つめていました。あの頃、野球少年だった私はスポーツ選手にあこがれていました。それからは、自分の人生の中でスポーツは常に身近にありました。中学時代の野球、高校時代のバスケットボール、就職してから職場の方々とボウリング。30代から始めたテニス、今でもコミュニティに所属するサークルの一員として毎週1回汗を流しています。

東京1964大会から56年、13回の他都市でのオリンピックを経て、また東京にオリンピックがやって来ます。3・11の大震災と原子力発電所の事故を始め、多くの自然災害に見舞われ、その傷もまだ癒えてはいない日本での2度目のオリンピックの開催。今こそ、「誰のためのオリンピックか?」ということをご考えていくべきではないかと思えます。そして、もし無事に開催され、このような日本に外国の方々が来てくれましたら、コミュニティの皆さんと一緒に、東上野の路地に縁台を出して、外国の方々と冷たい飲物を飲みながら、浮かれることなく色々話をしたいと思えます。

坂下 誠



台東区コミュニティ交流大会の舞台にて